

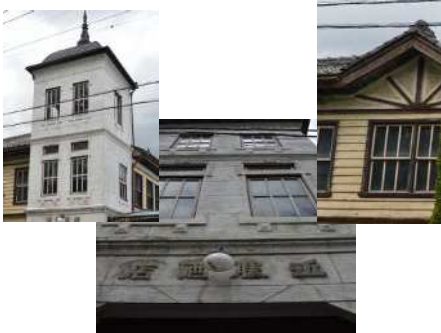
## 旧近藤銘醸(株)

小鹿野町両神小森122

大正ロマン香るこちらの洋館は、250年続いた老舗蔵元である近藤酒造の当主・近藤伝重朗が建てたものです。現在は(有)秩父ワインが所有しています。



### ここに注目！ 3つのポイント



#### ① レトロな外観

木造とコンクリート造からなる洋風の建物は、訪れる人をまるでタイムスリップしたような気分させます。伝重朗は東京の高等工業学校に通っていたこともあるため、東京に多かった木造の洋館のイメージをそのまま形にしたようです。

#### ② 酒屋時代の看板

年季の入った木製の看板は、酒造場の入口にかけてあり、近藤銘醸の歴史の長さを感じさせます。



#### ③ 展望台

目を引くとんがり屋根のついた3階の正体は…展望台なんです！現在でも旧両神村の山々を見渡すことができます。



### 他にも…

酒造場内の天井です。

補強こそされているものの、長くて太い梁は当時のまま。よく見るとごつごつして、かな削りではなく手斧(ちょうな)削りであることがわかります。



南側は日当たりがよく、北側は風通りがよいので、東西に長い造りになっています。初めからこんなに広がった訳ではなく、数回の増築によって今の広さになりました。



酒造りでは温度が大切。場内は真夏に冷房がなくても、ヒンヤリしています。

重石を上下するために使われていた滑車も当時のまま残されています。



入ってみると、外見とは違って変わって和室があります。

こちらは、酒造場時代、事務所として使われていたそうです。

こちらの酒造場では「志ら藤」という地酒を造っていました。



冠婚葬祭の時にだけ開けた出入口。

上の部分だけ曲線になっており、  
ここでも和洋折衷な雰囲気を感じられます。



出入口に通じる  
通路です。カーテン  
もレトロです。



2階へあがってみると…  
(手すりがないので気を付けて！)



新潟からやって来た杜氏さんたちが  
寝泊まりをしていた部屋です。

4つの部屋が「田」の字に配置  
されています。

部屋の中だけではなく、廊下にも  
畳を敷き詰め、大宴会場にする  
こともあったとか。



こちらの床の間には、先代が骨董  
品を飾っていたそうです。



もともと障子が貼られて  
いたようです。外に光が  
漏れ出してとってもお  
しゃれです。



欄間の彫刻も素敵です。

2階の奥には展望台につながる大変  
急な階段があります。手すりはなく、  
梯子のようです。



洋館の外にある精米所です。

酒造りに欠かせないお米は、  
こちらで精米していました。

2015年8月 訪問  
埼玉モダンたても学生レポーター  
日本女子大学文学部 竹田いぶき